

協賛ご検討のお願い

このたび、2026年6月27日・28日に日本科学未来館 7F 未来館ホールほかにて開催いたします「エンジニアがこの先生きのこるためのカンファレンス 2026（略称：きのこカンファレンス）」におきましてご協賛を賜りたく、下記の通りご案内申し上げます。

スポンサーメニューは以下リンクよりご覧いただけます。

<https://fortee.jp/kinoko-2026/go/sponsor-menu>

はじめに

本資料は、「この協賛が採用や認知にどのようにつながるのか」に正面からお答えするためのものです。きのこカンファレンスは、エンジニアが“これからもエンジニアとして生きていくためのヒント”を共有することを目的としたカンファレンスです。

私たちエンジニアの所属する業界は技術革新によってめまぐるしく変化し、

「10年後、自分はどうなっているのだろう？」

「ずっとエンジニアとして生きていくのだろうか？」

と不安を抱く人も少なくありません。そこで私たちは、長くエンジニアとして歩んできた先輩世代のリアルな経験を若い世代へ届ける場として本カンファレンスを立ち上げました。

きのこカンファレンスは、いわゆる“若手エンジニア大量集客型”のイベントではありません。**登壇者は原則40代以降（協賛企業を除く）**に制限されています。現役でコードを書き、チームを率い、CTO・VPoE・テックリードとして意思決定をしてきた人たちです。登壇内容も、「40代以降が自分たちの成功談を語る場」ではなく、これから先を生きる若いエンジニアに向けて、問い合わせを投げかけるトークが中心です。

一方で、参加者はその限りではなく、「次の世代にバトンを渡す」ことを目的としているため、むしろ若手・中堅エンジニアにも広く開かれた場になっています。また、参加者である若手・中堅エンジニアは、単なる受け手ではなく、次の10年を担う“当事者”としてこの場に参加しています。

※きのこカンファレンスが扱うトークの詳細については、トーク公募要項をぜひご覧ください。

<https://fortee.jp/kinoko-2026/speaker/proposal/cfp>

私たちがきのこカンファレンスを続ける理由

「エンジニアがこの先生きのこるカンファレンス」は、"今まさに業界を支えている世代"である40代以降のエンジニアが、これから業界をつくる世代に向けて何を手渡すかをテーマにしています。

ここに集まるのは、

- 採用する側になったエンジニア
- 技術選定・組織設計に責任を持つ立場の人
- 若手として「この先どう生きるか」を考え始めたエンジニア

です。

世代は違っても、共通しているのは「長くエンジニアとして生きたい」という切実さです。

また、この場で価値を持つのは、年齢そのものではありません。

「誰が、どんな言葉で、どんな未来を、誰に向けて語っているか」です。

意思決定をしてきた登壇者の言葉が、これから意思決定を担っていく若手に届く。

その世代を越えた接続が、このカンファレンスの一番の特徴です。

きのこカンファレンスにスポンサーしていただく価値

きのこカンファレンスの特徴を一言で言うと、「特定の技術や職能を主語にしていない」ことです。

言語でも、フレームワークでも、フロントエンド／バックエンド／インフラといった職能でもありません。

私たちが主語にしているのは、「エンジニアとして、どう生き続けるか」です。参加者のバックグラウンドは自然と多様になります。フロントエンド、バックエンド、インフラ、マネージャーなど、立場や専門の異なるエンジニアが、同じ文脈で話を受け取ります。

そのため、特定職種向けの言い換えをせずとも、企業としての姿勢や価値観を、参加者全体にまっすぐ届くことができます。

スポンサーの皆さんには、特定技術に詳しい企業であることを示すのではなく、エンジニアのキャリアを長期で考え、人を「今のスキル」だけで評価しないという企業としてのスタンスそのものをお伝えいただけます。

多くの技術イベントは、特定言語、特定職種、特定フェーズのエンジニアに強く刺さります。

それはそれで、とても価値があります。

ただ一方で、スポンサー企業から見るところの悩みも出てきます。

「対象外の人には、そもそも届かない」

「数年で技術トレンドが変わる」

「採用したい人物像が限定されすぎる」

きのこカンファレンスは、その前段階の“エンジニアの価値観”を扱っています。

これは、技術が変わっても、職能が変わっても残るものです。

登壇するのは40代以降の現役エンジニアですが、彼らが語るのは、

- どの技術を選び続けてきたか
- どんな職能に移ってきたか
- なぜその選択をしたのか
- どこで失敗し、どこで踏みとどまつたのか

という、技術の中身よりも「判断の軸」です。

その結果として、

- 技術が変わっても印象が残る
- 職能が変わっても名前が思い出される
- どの分野に行っても、あの会社は信頼できそう

という、持続する認知が生まれます。この認知に即効性はありません。

しかしその分、「時間が経っても価値が薄れない認知」として積み重なっていきます。

具体的には、次のような形で企業の印象が残っていきます。

- 若手が「こういう考え方の会社で働きたい」と感じる
- 中堅が「今の自分を否定されない場所」と認識する
- ベテランが「後進を任せたい企業」として名前を挙げる

このように、世代や立場の異なるエンジニアに対して、企業の姿勢や価値観が同時に届いていきます。

特定技術のイベントでは拾えない層に、一度に、同じ文脈で届くのが「きのこカンファレンス」です。

企業が、エンジニアのキャリアに寄り添うということ

ここで、ひとつ問い合わせを投げかけさせてください。

貴社で長く活躍しているベテランエンジニアは、どのような経験と選択を経て、今の場所に立っているのでしょうか。そのキャリアは、本人の努力だけで築かれたものではなく、企業として提示してきた役割や選択肢、挑戦できる環境によって支えられてきたものではないでしょうか。

エンジニアのキャリアは、個人だけで完結するものではありません。企業がどのように成長の道筋を示し、どのように寄り添い、後押ししてきたか。その積み重ねが、エンジニア一人ひとりの歩みを形づくります。しかし、こうした企業としての姿勢や考え方は、会社紹介資料や採用ページだけでは、十分に伝えきれないことも少なくありません。

エンジニアの成長と、組織の成長が重なり合う循環

企業にとって、エンジニアに長く活躍してもらうことは重要なテーマです。

それは単に在籍期間を延ばすことではなく、成長し続けられる環境を用意し続けることだと、私たちは考えています。エンジニアが成長することで、組織は強くなります。組織が強くなることで、さらに多様な選択肢や挑戦の機会を提示できるようになります。

エンジニアが生きのこる。組織が成長する。そしてまた、エンジニアが次の一步を踏み出せる。

きのこカンファレンスは、この「エンジニアの成長と組織の成長が重なり合う循環」を大切にしている企業の姿勢を、言葉だけでなく、経験として共有できる場です。

特定の技術や職能ではなく、エンジニアとしてどう成長し続けられるか。企業としてどう寄り添い続けてきたか。その考え方そのものを発信できることが、スポンサーとしてこの場に関わっていただく大きな価値のひとつだと考えています。

最後に

技術は必ず変わります。職能も、役割も変わります。

でも、「どんなエンジニアと一緒に長く働きたいか」という問い合わせは変わりません。

その問い合わせを、世代や職能を越えて共有している場だからこそ、私たちはスポンサーという形で関わってほしいと願っています。

是非、以下資料をご覧いただき、ご協賛をご検討賜れますと幸いです。

<https://fortee.jp/kinoko-2026/go/sponsor-menu>